

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>

稲作農家 各位

山武稲作情報 第4報(2017年6月28日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

山武地域の生育状況

「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年並かやや早く幼穂形成期を迎えました。4月下旬植えの「コシヒカリ」は幼穂形成期を迎えていますが、平年よりも幼穂の形成がやや遅れています。幼穂長を確認し、また、葉色を見ながら適期に追肥しましょう（基肥で一発肥料を使用している場合は追肥の必要はありません）。

参考 生育調査ほの調査結果 (調査日 6月26日)

品種	場所	年	移植日	葉令	莖数 (本/m ²)	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール	幼穂長 (mm)	幼穂 形成期	調査日
ふさ おとめ	山武市 (白 幡)	29	4/26	11.5	625.1	35.8	4.4	1.2	6/20	6/21
		28	4/30	11.4	583.9	39.9	4.9	1.0	6/20	6/20
		平年値	4/28	10.8	515.9	38.8	4.8	1.9	6/19	6/20
ふさ こがね	山武市 (成 東)	29	4/25	9.7	549.5	38.5	4.8	0.9	6/15	6/14
		28	4/26	10.3	510.6	37.7	4.7	0.9	6/18	6/17
		平年値	4/30	10.4	565.9	39.4	4.9	1.2	6/23	6/24
コシ ヒカリ	東金市 (北之 幸谷)	29	4/28	11.5	398.6	38.0	4.7	0.6	(6/28)	6/26
		28	4/22	10.7	594.3	36.5	4.5	1.0	6/24	6/24
		平年値	4/23	10.9	550.4	37.2	4.6	1.3	6/26	6/26
コシ ヒカリ	山武市 (成 東)	29	4/25	9.7	519.9	30.1	3.7	1.1	6/23	6/23
		28	4/26	10.3	408.9	34.7	4.3	1.2	6/24	6/24
		平年値	4/30	10.5	522.7	35.5	4.4	1.1	6/28	6/29
ふさの もち	山武市 (成 東)	29	5/10	9.9	571.7	31.5	3.9	-	-	6/26
		28	5/10	10.0	503.2	36.2	4.5	1.0	6/30	6/30
		平年値	5/9	10.0	601.6	39.8	4.9	-	-	6/24

平年値は過去10年間（ふさのちは7年間）の平均値。H29年度の幼穂形成期（）は推定日。

今年度からコシヒカリのほ場が東金市北之幸谷から東金市幸田に変更となりました。

【飼料用米】

品種	場所	年	移植日	莖数 (本 /m ²)	葉色 SPAD	葉色 カラー スケール	幼穂長 (mm)	幼穂 形成期	調査 日
アキヒカリ	山武市	29	4/26	780.4	40.8	5.1	-	6/13	6/14
夢あおば	山武市	29	5/14	568.0	41.8	5.2	1.2	6/25	6/26

郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたは FAX へ切り替えを進めています。電子メール・FAX をお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 水鳥 k.mztr@pref.chiba.lg.jp、 0475-54-0226（電話）

今後の管理

○水管理

4月下旬移植の「コシヒカリ」は幼穂形成期を迎えています。中干しを終了し、湛水してください。特に平均気温が20℃以下の低温が続くような場合は可能なかぎり深水で管理してください。

○追肥

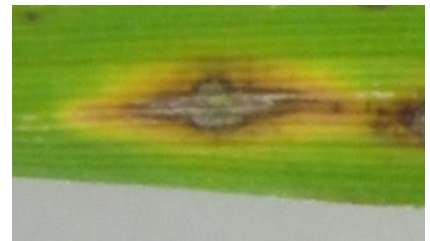
穂肥の適期は幼穂形成期から7～15日後頃（幼穂長1cm程度）です。幼穂を確認し、適期に追肥しましょう。

病害虫防除について

○いもち病

いもち病菌はカビの一種で、発芽～収穫まで発生する病気です。曇天雨が続き、25℃以下の平均気温が続く時に発生しやすくなります。いもち病は発病する部位によって、苗いもち、葉いもち、もみいもち、穂首いもちなどと呼ばれます。

最も収量減となるのは穂首いもちで、出穂期に感染して褐変し、穂全体が枯死して白穂になります。葉いもちなどの病斑が穂首いもちの主な伝染源になるので、穂ばらみ期に葉いもちの治療を行い、穂首いもちを予防しましょう。



いもち病病斑

○稲こうじ病

稲こうじ病は幼穂形成期から出穂前にかけてもみに発生する病気です。先端に黄緑色の球状の塊が発生し、次代に大きくなってもみ全体を灰白色に覆うようになります。発病したもみがある穂では登熟歩合・千粒重が低下し、また発病したもみが混入したまま精米すると、黒い菌塊が白米に混じり品質が低下します。



稲こうじ病罹病もみ

○紋枯病

紋枯病は幼穂形成期ごろになると発生しはじめ、8～9月の28～32℃、高湿度で最も被害が大きくなる病気です。葉や葉鞘に内部は灰白色、周縁部は緑褐色の病斑が発生し、下位葉から上位葉に広がり、穂首まで広がると収量に影響します。

紋枯病が収量に影響するのは上位葉、特に止葉から下位3葉に被害がある場合です。止葉から数えて4葉目で発病している時期に薬剤を1回散布して拡大を防ぎ、病気が収まらない場合にはもう1度散布しましょう。



紋枯病病斑

次回の情報は7月13日（木）に発行する予定です。